



年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学工業会会長

鈴木 胖

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本会の活動に多大のご協力とご支援をいただき、まことに有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年8月に大阪大学第18代総長に就任された西尾章治郎先生は1992年に大阪大学工学部情報システム工学科教授に就任され、その後10年間工学部・工学研究科に在籍されました。大阪大学工業会として総長ご就任を心からお祝い申し上げます。

さて、1919年に大阪高等学校の同窓会「大阪工業倶楽部」として発足した当会は、1971年大阪大学工学部の時代に「社団法人大阪工業会」として文部省の認可を受けました。2012年には法律の改正を受け「一般社団法人」に移行しました。本年で年齢に例えれば97歳を迎え、現存の卒業生、在校生の人数は約4万人にのぼり、大阪大学の部局等の同窓会の中でも最大の存在です。

当会は新しい定款に従い、公益継続事業（学生と若手教員の海外交流活動の援助・支援、研究科学論文誌の刊行等）と共益事業（同窓会活動）という二つの事業を実施しています。

当会の事業活動は卒業生、在校生、現任教員のうち会費を収めていただいている方すなわち会員により維持されています。これまで会費は正会員、学生会員向けに複雑な会費規定を設けていただいていたのですが、諸般の事情を考慮して、平成28年度からは会費を5万円とし、以後会員は会費不要な終身会員となっただけといたしました。すでに正会員、学生会員になっておられる方の年会費は従来通りですが、終身会員になっていただける場合は5万円をいただきます。

当会の事業を活発化するには、大学との連携を一層緊密にし、学生や教職員の皆様に大学の教育研究活動への工業会の支援を身近に感じてもらうことが基本的に重要であると考えています。

昨年の年頭挨拶でも述べましたように、工学研究科では現在の工学部地区にある福利厚生会館（おもに食堂）の耐震改修工事を機に、大阪大学未来基金に「工学部・工学研究科教育研究事業」を設置し、隣接して吹田福利交流研究棟（仮称）を新たに建設することを計画しました。大学として認可された吹田福利厚生会館の改修・改築工事は昨年11月から始まり（本稿投稿時の予定）。改築部分（前述の福利交流研究棟（仮称）に当たる部分）は6階建て、延床面積約3,700㎡の規模で、1階は食堂の拡張部分、2階は売店、コーヒースタンプなど、3階は交流スペース・サロン、4～6階はオープンラボが設けられます。総工費は約13億円で、2017年3月の完成、4月グランド・オープンの予定です。

当会では大学との連携をさらに強化し、活動の新しい展開を図ることを狙い、昨年6月の総会に図り福利交流研究棟3階の交流スペース・サロンに当会事務局を移転すること、建設のため1億円の資金を提供することを決めていただきました。その結果、大学により3階に工業会事務所を置くことが認められ、約30㎡の面積が確保されました。

ご報告をかね、本会の活動への皆様の一層のご支援・ご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

（電気 昭和33年卒 35年修士）



新春のご挨拶

工学研究科長・工学部長

田中敏宏

平成28年の年初にあたり謹んでご祝詞申し上げます。大阪大学工業会の皆様のご多幸を祈念申し上げます。また、常日頃より大阪大学工業会の皆様方からの温かいご支援を頂戴いたしておりますことに対し、改めて厚く御礼申し上げます。

平成27年8月末から、前任の掛下研究科長の後任として、大阪大学・大学院工学研究科長・工学部長に就任いたしました。工学部同窓生の皆様はこの場をお借りして改めてご挨拶を述べさせていただきます。私自身は既に掛下前研究科長のもとで副研究科長（教務委員長）を3年半にわたり務めさせていただき、その前の2年間も当時新たに発足しました工学研究科・国際交流委員会（旧国際交流室）のお世話をさせていただくなど工学研究科の運営面にも関与してまいりましたので、これまでの工学研究科運営体制の基本的路線を継承しつつ、昨今の動きの激しい世の中の動向に対応して、様々な問題に取り組んでまいり所存です。特に、大阪大学の総長をはじめとする執行部も平成27年8月から新たな体制に変わりましたので、全学の新たな取り組みに対処しつつ、工学研究科の良さをさらに引き立てる役目を果たしたいと考えております。

工学研究科は基礎研究から応用研究に至るまで世界に誇る研究成果を長年にわたり発信し続けている教育研究機関であります。その最も重要な使命は、「人材育成」であることは言うまでもありません。私自身、教育活動・国際交流活動に対しましてはもとより関心が高く、工学研究科におきましては2012年4月より3年半にわたって教育学務国際室長を務めさせていただきました。特に2年前からは、特別経費による「アジア人材育成のための領域横断国際教育研究拠点形成事業」を始めました。この事業は、大学のグローバル化に対応するものであり、海外の主要な大学との間で協定を結び、大学院の修士・博士に相当する学位を両方の大学で取得するダブルディグリー制度の構築を目指したものです。海外の大学のキャンパスと阪大のキャンパスが、互いに“海外キャンパス”になり、学生・教員が両方の大学で教育活動・研究活動を行い、学生は2つの学位

を取得するシステムです。昨今、海外への学生の留学が少なくなった傾向が指摘されておりますが、このシステムでは学位取得のために海外の大学で一定期間過ごす必要が出てまいります。また、海外の優秀な留学生を阪大に迎える基盤にもなる国際教育の新たな展開を目指したものです。このプログラム構築は当初非常に難しいことが予想されましたが、実際には、工学研究科において、例えば生物工学系では40年も前から英語コースが準備され始め、それ以来、多数の留学生在が課程修了後、東南アジア等の各国の大学においても活躍され、強い信頼関係が構築されております。この話題に触れさせていただきましたのは、将来の人材育成のためには、過去に積み重ねられてきた人材育成の実績が非常に重要であり、また人材育成の成果が本当に生きてくるのには、10年、20年、場合によっては30年、40年の年月の歳月が必要であり、人材育成に対しては短期的な評価はそぐわず、長期的な視点を持って人材育成にあたるべきであると改めて感じたためです。過去に積み重ねられてきた人材育成の実績を活かした「将来に向かっての人材育成の取り組み」をじっくりと進めていく基盤構築を今改めて進めて参りたいと思っております。勿論、国際交流のみならず、人材育成・教育分野におきましては、これから取り組むべき重要課題がまだまだ山積してあります。これまでの教務関係の諸活動の中で培って来ました数々の経験を十二分に活かして取り組みたいと思っております。

我が国の将来を牽引できる人材輩出に力を注ぎ、その生き生きとした取り組みと実績が国内外から高く評価され、それがまたより一層の魅力・牽引力となって、将来を担う若い人々を惹きつける阪大工学部・工学研究科を創りあげたいと思っております。皆さまのご支援・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

（冶金 昭和55年卒）



年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学同窓会連合会会長
大阪大学元総長・名誉教授

熊谷信昭

大阪大学工業会の皆様、明けましておめでとうございます。皆様それぞれにいろいろな感慨をもって新しい年をお迎えになられたことと存じます。

私共の大阪大学工学部はその源流となった官立大阪工業学校が明治29年（1896年）に誕生してから今年で丁度120年となりました。また、我が国の第6番目の帝国大学として昭和6年（1931年）に発足した母校大阪大学は今年創立85周年を迎えます。

85年前の開学式翌日の新聞には、一面トップの大見出しで「大阪帝大開学式」、「五月晴れの朝 朗らかな産聲」と大きな活字で書かれていて、官民挙げての喜びの模様を伝えています。（大阪朝日新聞 昭和6年5月2日付夕刊）

その後の大阪大学は、まさにこの新聞の見出し通りに、朗らかで、明るく、活力溢れる若々しい大学とし

て発展の一途をたどり続け、各種の大学評価ランキングなどでも常に上位を占めるなど各方面から高い評価を受けており、また、卒業生の皆様も国内外の各界・各分野で目覚ましい活躍をしておられることはまことにご同慶の至りです。

昨年8月には西尾章治郎元副学長が第18代の阪大総長に就任され、これで工学系の阪大総長は第4代の八木秀次総長以後5人目となりました。また、同じく昨年8月には新しい工学部長・工学研究科長に田中敏宏教授が就任されました。大阪大学の伝統的な先進的、積極的な学風を受け継いでご活躍くださることを期待しています。

大阪大学の益々の発展と大阪大学工業会の皆様の一層のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（通信 昭和28年旧制卒）

新年を迎えて

大阪支部長 藤井 宏一

新年あけましておめでとうございます。

今年も無事大過なく過ごせる年になります様祈っております。

ノーベル賞を受賞された理論物理学の湯川秀樹博士が、「俱舎論」というお経を読まれて、びっくりなさったそうです。それは「極微の中に九億匹の虫あり」という文句に出会われたからです。

「極微」というのは、我々が知り得る最小の単位ですね。その中に九億匹の虫、生きものがあるという。面白い事を書いているな、このお経は、というので元気を出して研究を続けられた。それで中間子の存在を予言なさって、素粒子論展開の契機を作られました。

仏教は「空」を説き、その「空」を入り口として「一切苦」からの解脱をはかり、ついには、清浄なる大安楽の世界を、自分自身や一切に及ぼす生き方を示しているのです。その「優誕」こそが大慈悲心を発して、他を殺す事なく、全てにわたって最大限に他を生かす。それによって、自分で自分の首を絞める事も無くなり、清浄さが増すのです。

その基本になる「空」とは何か。それは宇宙一切の事物がすっぽりと入っている、ゆとり一杯の広さ、深さ、重厚さなどを永遠に持ち続けている仏様のお屋敷だ、と思ってください。「空」になれた深さ、すなわち仏様のお屋敷にどこまで入っていけるのか。この「大慈悲」、「不殺生」と「空」の考え方は、世界の哲学や宗教の中でも仏教独特の教えであって、今後の世界や人類の未来に、絶対に欠かせない要素だと思えます。

弘法大師様のご文章の中に「文雅陶心」という言葉がございます。陶器というのは、焼いて仕上げた品物には違いないのですが、陶という言葉には、心を込めて、本当にとおしんで磨き上げる、という意味があります。

いとおしんで磨き上げる「陶心」つまり、心をそういうふうに磨きましょう、ということです。そういうふうに関心を育てなさいということです。

しかし、近頃のご家庭を見ていると、子供さんを叱る必要もないのに、無茶な叱り方をしてみたり、まあ世の中が苛々していますから、やむを得ないのかもしれませんが、放っておいたりする。本当に人を育てる、心を育てる教育が、どんどん家庭から失われていっているような気がします。

明治時代に外国からやってきた人が、日本ほど識字率の高い、教育水準の高い国は無いと言っていたそうです。今は学力において、ひところよりもかなりレベルが下がっている、という統計が出されていましたが、日本には世界に誇れるものがあるのです。「心を養う」、その心の究極の所に世界に無いものがある、と私は思っています。そこに将来、日本が世界を引っ張っていく国となる。素晴らしい要素が隠されていると思うのです。

聖書には、「言葉は神なりき」とありますし、弘法大師様も「声字実相義」では、自然法爾の経典、説法として、言葉を扱っておられる程で、言葉はとても大事です。ですから、その様に言っていると、その様になりやすい。だから、良い言葉を使う事です。

弘法大師様以来の教育の心根に有ったものは何なのか。それは全ての人に仏様の命が通っているのだから、その仏様の思っておられる事、話しておられる事、なさっている事を真似ていって、お互いがそれをやっていく事です。だから、生かされていることが、「お陰様で」という気持ちなのです。「皆さんのお蔭によって」、「あらゆるもののお蔭様で」という事ですね。この「お蔭で生かされている」という気持ち、これは世界でも日本人ほど強い民族は無いと思えます。

(冶金 昭和26年卒)

新年を迎えて

東京支部長 池田 博昌

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして15年目(8期目)に入ります。支部の運営に当たり、会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

今年の干支は丙申であり、暦占いによれば、「丙」は芽が地上に出て張り出し広がった状態を示し、「申」は「伸」で物事が伸びて広がって行く状態を示しており、昨年から養ってきたものが実りを結ぶ年となるようです。ただ、気候面では地震・水害・爆発・大雷雨が例年より多い年となるようです。

昨年は、ノーベル生理学・医学賞を大村智氏が、物理学賞を梶田隆章氏がそれぞれ受賞されるという快挙があり、誠にめでたいことでした。大阪大学では総長の改選があり、情報系の西尾章治郎先生が新総長にご就任になり、新しい展開が期待されます。昨年秋に安倍首相が掲げたアベノミクスの新3本の矢は課題が多いと考えられます。また、政治面では安保法制が成立し、TPPの大筋が固まったところで、今後の国際的位置づけが重要になるでしょう。経済は一時的には停滞しておりますが、株価2万円の再来を期待したいものです。何はともあれ、前向きに考えて明るい健康な生活を維持したいものです。

4年前に発足した大阪銀杏技術士会(阪大技術士会)は、着実な進展をしており、会員数は増加しており、100名も間近です。阪大卒業者の中で技術士の資格をお持ちの方は会員登録を頂くと幸甚です。皆様のご理解をお願いします。

OKC東京支部の活動に関しましては、月例の夕方の「二日会」、昼食会としての「二水会」はいずれも会員相互の懇親を深める会として着実に開催しております。二日会には平均18名、二水会には平均10名の参加があり、毎月賑やかに話題が広がっております。二日会の日の午後には実施している「囲碁同好会」も毎月盛況です。四大大行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近65名程度のご参加を頂いております。「ゴルフ同好会」については春秋と開催しており、参加者の若返りが進んでおります。さらに、経済学部・法学部OBとの懇親ゴルフも着実に進展しており、当支部からは10名が参加しております。今年も1月初旬に予定しております。「旅行同好会」も軌道に乗ってきており、北陸新幹線の金沢への開通を記念して「能登半島ぐるり一周の旅」として3日間の観光とゴルフを楽しむ会を、大阪支部からの参加も得て11月に実施しました。冬季には「スキー同好会」の活動も積極的に行われております。また、「カラオケ同好会」も好評です。

四大大行事には多数の参加を期待して参加者の誘致に努力するなど、6名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も、支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

(通信 昭和34年卒)